

1999.4/24

4年前の宿題

秋田さきわけ

平成七年春、十和田湖畔の発荷峠一帯で、チシマザサ（ネマガリダケ）が広範囲にわたって開花し、その後、茶色に枯れ果てた。タケノコ採りの名所。人々は山奥に入り込み、遭難者が続出した。

当時、現地の支局に勤務していたが、植物の生態を不思議がる余裕はなく、遭難者続出

の取材に追われた。あれから四年

一。県立大学秋田キャンパスで入学式が行われた。



4年前の宿題

るらしい。

が、やっと解けた

思いだつた。

県立大の初年度教員は助手も含め百三十三

た日の午後、新入生や教員の抱負を聞き歩いていた時、教員名簿の研究分野一覧の「ササの一斉開花と枯死」という項目に目が止まった。「もしや」と思つて、教員室のドアをノックした。「十和田湖のササの枯死? 調査に行きましたよ」と、部屋の主である蒔田明史助教授(西三)は答えた。

蒔田助教授によると、ササの一斉開花・枯死は恐らく百一二百年に一回しか起こらない。十和田

湖をササにたとえるのは失礼かもしれないが、秋田に根差した教員たちが、地下茎を張り巡らし、研究成果や卒業生

次世代を育てられる」など、諸説あるという。ブナ林の更新にも関係がある

とすると食べ残しが生じ次世代を育てられる」など、諸説あるという。ブナ林の更新にも関係がある

（社会部・佐藤誠吾）